

薬業学科

解剖生理学

単位数 4単位（60時間） 前期・後期
担当 岡野 祐規子（非常勤講師）

現薬剤師が、人体の構造とともに、人体での薬の働きを学ぶ薬物動態を交えながら講義する

1. 概 要

人体の各名称、構造とその機能を学び、登録販売者に必要な知識を習得します。

2. 学習目標

- ①人体の構造と機能について興味をもつ。
- ②人体の主要器官の名称と構造と機能が理解できる。
- ③薬の働く仕組みと主な副作用を理解できる。

3. 到達目標

- ①主要器官の場所や名称を答えることができる。
- ②主要器官の構造と機能を説明できる。
- ③薬の働く仕組みと副作用を概説できる。
- ④登録販売者試験に必要な医学的知識を習得する。

4. 評 価

定期試験【 80 %】及び受講態度・意欲及び出席状況等【 20 %】をもって総合的に評価する。

5. 教科書・教材等

教科書：「ココデル虎の巻 登録販売者試験 対策テキスト（下）、過去問題集」
(ネットパイロティング)

その他：必要に応じてプリントを配布する

6. 学習内容と講義計画

【学習内容】

登録販売者試験に必要な人体の構造と薬が働く仕組みについて解説し、過去問題で知識の確認をする。また画像を見ることで人体の構造などを理解し学習していく。

【授業計画】

回	講義内容(前期)
1	オリエンテーション
2	内臓器官―消化器
3	内臓器官―消化器
4	内臓器官―呼吸器
5	内臓器官―循環器
6	内臓器官―循環器
7	内臓器官―泌尿器
8	感覚器系―目
9	感覚器系―鼻・耳
10	運動器系―外皮系
11	運動器系―骨格系
12	運動器系―筋組織
13	中枢神経系
14	末梢神経系
15	前期まとめ

回	講義内容(後期)
1	薬が働く仕組み―吸収
2	薬が働く仕組み―代謝
3	薬が働く仕組み―排泄
4	薬が働く仕組み―血中濃度
5	薬が働く仕組み―剤型
6	全身性の副作用―ショック・皮膚粘膜眼症候群・肝機能障害
7	全身性の副作用―偽アルドステロン症・抵抗力の低下・出血傾向
8	精神神経系の副作用―精神神経障害・無菌性髄膜炎
9	局所の副作用―消化器
10	局所の副作用―呼吸器
11	局所の副作用―循環器
12	局所の副作用―泌尿器・感覚器
13	局所の副作用―皮膚
14	後期のまとめ
15	総まとめ

登録販売者試験対策Ⅰ

単位数 4単位（60時間） 後期
担当 照井 雅弥（専任教員）

登録販売者として勤務していた講師が、その経験を活かし登録販売者資格取得のための講義をする

1. 概要

過去問題の解説を交え、登録販売者試験に合格する力を身に付けます。

2. 学習目標

- ①登録販売者資格試験合格に必要な基礎学力を身につける。
- ②使用される薬の意義や役割を正しく把握するための基礎知識を得る。

3. 到達目標

- ①模擬問題を通し、内容の理解を深める。
- ②過去に出題された問題において、解答のスピードと正答率を上げる。

4. 評価

定期試験【 80 %】及び受講態度・意欲及び出席状況等【 20 %】をもって総合的に評価する。

5. 教科書・教材等

教科書：「ココデル虎の巻 登録販売者テキスト（上）・（下）、過去問題集」
（ネットパイロティング）

その他：必要に応じてプリントを配布する。

6. 学習内容と講義計画

【学習内容】

試験問題の作成に関する手引き（厚生労働省）をもとに各省の内容をチェックして、試験合格に必用な要点を再確認する。

【授業計画】

回	講 義 内 容 （後 期）
1	オリエンテーション・試験概要と合格対策について
2	レベルチェック
3	レベルチェック
4	レベルチェック
5	レベルチェック
6	レベルチェック
7	レベルチェック
8	レベルチェック
9	レベルチェック
10	レベルチェック
11	レベルチェック
12	模擬試験 ①
13	模擬試験 ①
14	解答・解説
15	解答・解説

回	講 義 内 容 （後 期）
1	各章の対策について
2	過去問題 解説
3	過去問題 解説
4	過去問題 解説
5	過去問題 解説
6	過去問題 解説
7	過去問題 解説
8	過去問題 解説
9	過去問題 解説
10	過去問題 解説
11	模擬試験 ②
12	模擬試験 ②
13	解答・解説
14	解答・解説
15	まとめ

薬業ゼミナール

単位数 4単位（60時間） 前期・後期
担当 松田 雅世 （専任教員）

登録販売者として勤務している講師が、その経験を活かし登録販売者資格取得のための講義をする。

1. 概要

ドラッグストアや調剤薬局のスタッフに必要な知識と自分で学ぶ力を身につけます。
他社へ研究を発表することで、発信する力と、相互に知識を増やしていきます。

2. 学習目標

- ①ドラッグストアや調剤薬局のスタッフに必要な知識と自分で学ぶ力を身につける。
- ②他者へ研究を発表することで、発信する力と、相互に知識を増やすことを目的とする。

3. 到達目標

- ①課題に対して情報を整理し、他者へわかりやすく発表を行う。
- ②発表者の内容を理解し、的確な質疑が行え、情報を発展できる。

4. 評価

定期試験【 50 %】及び受講態度・意欲及び出席状況等【 50 %】をもって総合的に評価する。

5. 教科書・教材等

教科書：なし（必要なプリント等を使用）

6. 学習内容と講義計画

【学習内容】

薬業に関連する知識を課題研究として取り組み、発表し、質疑を繰り返し、互いの知識として身につける。

【授業計画】

回	講 義 内 容 (前 期)
1	オリエンテーション① 目的と概要
2	オリエンテーション② 授業計画と評価方法
3	課題研究① 課題作成
4	〃
5	〃
6	〃
7	課題研究① 課題発表
8	〃
9	〃
10	〃
11	〃
12	〃
13	〃
14	反省と振り返り
15	追発表・補足

回	講 義 内 容 (後 期)
1	オリエンテーション③ 自己課題の修正
2	オリエンテーション④ 改善に対する具体的施策
3	課題研究② 課題作成
4	〃
5	〃
6	〃
7	課題研究② 課題発表
8	〃
9	〃
10	〃
11	〃
12	〃
13	〃
14	反省と振り返り
15	追発表・補足

医療事務学科

医療事務

単位数 10単位（150時間） 前期・後期（11月まで）
担当 太田 雅子（専任教員）

学校現場における教員経験かつ医療業界での実務経験を持ち、新人指導経験のある教員が、受付から会計、診療報酬請求まで基本的な知識を指導する。

1. 概要

医療保険の仕組みを理解し、医療事務の基礎知識を習得する。具体的なさまざまな診療内容の明細書作成ができる

2. 学習目標

- ①医療事務についての基礎知識を習得する
- ②診療報酬点数算定について理解し、併せて具体的な診療内容について診療報酬明細書の作成方法を習得する
- ③医科医療事務管理士の資格取得を目標とする

3. 到達目標

- ①医療保険の仕組みが説明できる
- ②診療報酬点数表の考え方を理解できる
- ③カルテを読み込みことができる
- ④点数算定に係る様々なルールを理解できる
- ⑤外来のカルテ症例から診療報酬請求書を作成することができる
- ⑥入院のカルテ症例から診療報酬請求書を作成することができる
- ⑦総括の方法を理解できる

4. 評価

定期試験【50%】及び受講態度・意欲及び出席状況等【50%】をもって総合的に評価する。

5. 教科書・教材等

教科書：「診療点数早見表」（医学通信社）

「医科医療事務テキスト1・2・3、トレーニングブック、サポートブック、医学入門」（ソラスト）

その他：必要に応じてプリントを配布する

6. 学習内容と講義計画

【学習内容】

診療報酬点数表の抜粋であるサポートブックに基づき、コード番号順に学習を勧める。関連する教科の進捗と照らし合わせながら、基本的な内容のカルテ症例から応用症例へと移行し、検定対策として過去問題に取り組む。

【授業計画】

週	講義内容（前期）
1	医療事務とは
2	サポートブック、診療報酬点数表の考え方・見方
3	診療報酬請求の意味
4	外来の点数 ①基本診療料
5	②医学管理、在宅医療
6	③投薬料
7	④注射料
8	⑤処置料
9	⑥手術・麻酔料
10	⑦検査料（検体検査、判断料）
11	⑧検査料（生体検査）
12	⑨画像診断
13	⑩リハビリテーション料、その他
14	入院の点数①
15	入院の点数②

週	講義内容（後期）
1	医科医療事務管理士 検定対策
2	
3	
4	
5	
6	総括（点検、編綴）
7	医療事務のまとめ
8	後期まとめ

医療事務コンピュータⅠ

単位数 1単位（15時間） 後期
担当 野崎 道子（非常勤講師）

医療の事務的業務に携わっている医療事務の講師が、医療事務コンピュータに関する様々な技術の実習を行う。

1. 概要

病院における医療事務コンピュータの基本操作を学び、明細書の作成・総括・日報発行などの日常業務を理解する。

2. 学習目標

- ①医療事務コンピュータの機能を習得する
- ②病院での医療事務コンピュータ活用事例を理解する
- ③医療事務コンピュータと電子カルテ連携の仕組みを理解する

3. 到達目標

- ①医療事務コンピュータの操作ができる
- ②医療事務コンピュータ導入のメリットを理解できる
- ③医療事務コンピュータで診療報酬明細書が作成できる
- ④医療事務コンピュータ周辺機器を理解できる
- ⑤医療事務コンピュータで行なえる業務を理解できる

4. 評価

定期試験【80%】及び受講態度・意欲及び出席状況等【20%】をもって総合的に評価する。

5. 教科書・教材等

教科書：「医科医療事務テキスト1、トレーニングブック、サポートブック」（ソラスト）
その他：必要に応じてプリントを配布する

6. 学習内容と講義計画

【学習内容】

2年次への継続講義である。まず導入として、医療事務コンピュータのシステムについて知る。医療事務コンピュータの基本操作を学習し、患者情報入力、カルテ読み込み、診療内容の入力をマスターする。

【授業計画】

回	講 義 内 容 (前 期)
1	医療事務コンピュータの基本操作①
2	医療事務コンピュータの基本操作②
3	新患登録・患者情報入力
4	新患登録・患者情報入力／修正方法
5	新患登録・患者情報入力／修正方法
6	診察料（初診・再診）の入力
7	診察料（初診・再診）の入力
8	投薬料（内服薬・頓服薬・外用薬）の入力
9	投薬料（内服薬・頓服薬・外用薬）の入力／入力誤りの確認
10	投薬料（内服薬・頓服薬・外用薬）の入力／入力誤りの確認・修正
11	注射料の入力
12	注射料の入力／入力誤りの確認
13	注射料の入力／入力誤りの確認・修正
14	領収書、レセプト用紙の出力
15	まとめ

医療事務コンピュータⅡ

単位数 4単位（60時間） 前期・後期
担当 野崎 道子 （非常勤講師）

医療の事務的業務に携わっている医療事務の講師が、医療事務コンピュータに関する様々な技術の実習を行う

1. 概要

病院における医療事務コンピュータの基本操作を学び、明細書の作成・総括・日報発行などの日常業務を理解する。

2. 学習目標

- ①医療事務コンピュータの機能を習得する。
- ②病院での医療事務コンピュータ活用事例を理解する。
- ③医療事務コンピュータと電子カルテ連携の仕組みを理解する。

3. 到達目標

- ①医療事務コンピュータの操作ができる。
- ②医療事務コンピュータ導入のメリットを理解できる。
- ③医療事務コンピュータで診療報酬明細書作成ができる。
- ④医療事務コンピュータ周辺機器を理解できる。
- ⑤医療事務コンピュータで行える業務を理解できる。

4. 評価

定期試験【 80 %】及び受講態度・意欲及び出席状況等【 20 %】をもって総合的に評価する。

5. 教科書・参考書

教科書：「医科医療事務テキスト1、トレーニングブック、サポートブック」

（ソラスト）

その他：なし

6. 学習内容と講義計画

【学習内容】

カルテを元に、医療事務コンピュータの基本操作を学習し、明細書の作成・総括・日報発行などを行うことにより、病院での医療事務コンピュータ業務について理解を深める。

【授業計画】

回	講義内容（前期）
1	処置カルテ入力①
2	処置カルテ入力②
3	手術カルテ入力①
4	手術カルテ入力②
5	検査カルテ入力①
6	検査カルテ入力②
7	レントゲンカルテ入力①
8	レントゲンカルテ入力②
9	リハビリカルテ入力
10	総括表プリント
11	入院カルテ入力
12	外来、入院カルテ入力 1
13	外来、入院カルテ入力 2
14	外来、入院カルテ入力 3
15	外来、入院カルテ入力 4

回	講義内容（後期）
1	外来、入院カルテ入力 5
2	外来、入院カルテ入力 6
3	外来、入院カルテ入力 7
4	外来、入院カルテ入力 8
5	外来、入院カルテ入力 9
6	外来、入院カルテ入力 10
7	外来、入院カルテ入力 11
8	外来、入院カルテ入力 12
9	外来、入院カルテ入力 13
10	外来、入院カルテ入力 14
11	外来、入院カルテ入力 15
12	外来、入院カルテ入力 16
13	外来、入院カルテ入力 17
14	外来、入院カルテ入力 18
15	医事コンピュータのまとめ

診療放射線学科

授業科目		エックス線解剖学Ⅰ		科目番号	19	
科目分野		専門基礎分野（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち）		学年学期	1 年前期・後期	
単位数	2 単位	時間数	60 時間	授業形態	講義	
担当教員	青山 敏幸、濱谷 美和（専任教員）					
	実務経験	放射線撮影業務に携わった経験を持つ教員が、放射線検査における画像解剖を講義する。				
授業の概要						
1. 各種画像の成り立ちと特性を人体の構造と機能および病理から理解する。 2. 画像情報に関する理工学的な形成因子を理解する。 2. 人体の画像解剖を理解し病態の認識から画像描出技術を理解する。						
到達目標						
1. 基本的な各種画像の成り立ちを理解し、画像情報が理解できる。 2. 主要な画像解剖の名称や解剖学的役割の説明ができる。						
授業計画						
回	テーマ		内 容			
1	ガイダンス		X 線解剖学の意義と特徴、解剖用語			
2	呼吸器系 ①		呼吸器系解剖			
3	呼吸器系 ②		画像構成の原理と画像解剖			
4	縦隔		呼吸器と血液循環、心臓、咽頭と喉頭			
5	消化器系 ①		消化管画像解剖			
6	消化器系 ②		食道、胃、小腸、大腸			
7	消化器系 ③		肝・胆・膵			
8	泌尿器系 ①		腎 臓			
9	内分泌系 ①		内分泌器官			
10	内分泌系 ②		消化ホルモン			
11	骨格系		骨格総論			
12	上肢骨格		手、手関節、前腕骨、肘関節、上腕骨			
13	上肢帯骨格		肩関節、肩甲骨、肩鎖関節、鎖骨			
14	下肢骨格 ①		足、足関節、下腿骨			
15	下肢骨格 ②		膝関節、大腿骨、股関節			
16	泌尿器系 ②		尿管、膀胱、尿道、男女生殖腺			
17	胎児循環		一般的血液循環との相違			
18	骨格筋と骨盤骨		骨格筋総論と骨盤画像解剖			
19	脊椎 ①		脊椎総論			

20	脊椎 ②	頸椎、胸椎
21	脊椎 ③	腰椎、仙骨、尾骨
22	頭部 ①	頭蓋骨総論
23	頭部 ②	副鼻腔、聴覚
24	頭部 ③	脳概要
25	頭部 ④	大脳辺縁系と画像解剖
26	頭部 ⑤	大脳基底核と画像解剖
27	頭部 ⑥	脳室、脳槽、脳脊髄液循環と画像解剖
28	頭部 ⑦	小脳、脳幹と画像解剖
29	頭部 ⑧	伝導路と臨床所見と画像解剖
30	まとめ	エックス線解剖学Ⅰのまとめ
教科書・参考資料		
教科書 「若葉マークの画像解剖学」 松村 明, 阿武 泉 監修（メジカルビュー社） 「診療放射線技師 ブルー・ノート 基礎編」 福士政広 編（メジカルビュー社） 「X線撮影技術学」 小田紋弘, 土井 司, 安藤英次 共編（オーム社） 参考書 「カラー人体解剖学」 F.H.マティーニ, 他 著, 井上貴央 監訳（西村書店） その他 必要に応じてプリントを配布する。		
評価方法		
定期試験：	90 %	左記の項目について、表記の割合で評価する。 定期試験は、各期に分けて行う。
授業参加態度：	10 %	

授業科目		エックス線画像技術学Ⅰ		科目番号	39
科目分野		専門分野（診療画像技術学・臨床画像学）		学年学期	1 年前期
単 位 数	2 単位	時 間 数	30 時間	授業形態	講 義
担当教員	北 雪乃、 青山 敏幸（専任教員）				
	実務経験	放射線撮影業務に携わった経験を持つ教員が、X線の成り立ち、X線を用いた撮影方法について講義する。			
授業の概要					
1. X線のどのような性質を用いて、画像化するかを理解する。 2. X線撮影をする際、人体上の基準や撮影規則について理解する。 3. 胸部、腹部、骨格に対する単純X線撮影がどんな目的で行われ、どのように撮影するかを理解する。 4. X線撮影時、被検者のX線被ばくをどうしたら低減できるかを理解する。					
到達目標					
1. 単純撮影系におけるX線発生から各種画像出力までを説明できる。 2. X線と被写体との相互作用を説明できる。 3. X線写真の画質はどのような因子によって変化するかを説明できる。 4. 撮影に用いる基準線、基準点、体位、X線の方向を説明できる。 5. 四肢骨の骨格、関節の撮影法を説明できる。 6. 胸部、腹部の撮影法を説明できる。					
授業計画					
回	テーマ		内 容		
1	放射線検査とは		放射線検査全般の概要について		
2	撮影に必要な用語		撮影方向、基準線（面）、ポジショニング用語解説		
3	一般撮影概要 ①		一般撮影室、撮影必要器材について		
4	一般撮影概要 ②		画像出力に関する必要器材について		
5	画像の構成		被写体コントラスト、写真コントラスト		
6	受像系（検出器）について		増感紙/フィルム系、CR、FPD		
7	画像の成り立ち		線量、線質、半価層、半影、鮮鋭度、コントラスト		
8	一般撮影法 ①		全般的注意事項		
9	一般撮影法 ②		胸部撮影		
10	一般撮影法 ③		腹部撮影		
11	一般撮影法 ④		上肢撮影法（手・手関節・肘関節・上腕骨）		
12	一般撮影法 ⑤		上肢帯撮影法（肩・鎖骨・肩鎖関節・肩甲骨）		
13	一般撮影法 ⑥		下肢撮影法（足・足関節・下腿骨）		
14	一般撮影法 ⑦		下肢撮影法（膝関節）		
15	一般撮影法 ⑧		下肢撮影法（大腿骨）		

教科書・参考資料		
教科書		
「X線撮影技術学」 小田紋弘，土井 司，安藤英次 共編（オーム社）		
「チェックポイント X線撮影と画像評価」 谷崎 洋，大棒秀一 著（医療科学社）		
評価方法		
定期試験：	60 %	左記の項目について、表記の割合で評価する。
確認テスト：	35 %	
授業参加態度：	5 %	
備 考		
受講中に理解できない内容はその都度質問し、その日のうちに習得することが必要である。 本講義はエックス画像技術学Ⅱへ繋がる基礎知識となるため十分な理解が望まれる。		

授業科目		画像工学 I		科目番号	68
科目分野		専門分野（医療画像情報学）		学年学期	1 年後期
単 位 数	2 単位	時 間 数	30 時間	授業形態	講 義
担当教員	武田 祐司（専任教員）				
	実務経験	放射線撮影業務に携わった経験を持つ教員が X 線画像を得るための知識、画像評価の基礎を講義する。			
授業の概要					
X 線と検出体の反応を理解し、医療現場で適切な X 線画像を得るための知識を得ることを目的とする。また、得られた画像の評価法の基礎について学ぶ。これらの知識は診療放射線技師として適切な撮影を行うことができるようになるために必須である。					
到達目標					
1. X 線と検出体との反応について理解する。 2. 画像情報解析の基本を身につける。					
授業計画					
回	テーマ		内 容		
1	ガイダンス		授業の進め方、評価の方法などの説明		
2	写真感光の原理		写真の歴史と銀塩写真の基礎		
3	ハロゲン化銀		ハロゲン化銀結晶の物性		
4	露光と潜像		露光と潜像の特徴と現象		
5	現像処理		写真処理とその化学		
6	F-S 系で使用する機器と設備		暗室設備、自動現像機と管理		
7	センシトメトリと特性曲線		写真濃度と露光量、特性曲線の求め方		
8	F-S 系まとめ		まとめ		
9	デジタル画像の基礎		デジタル信号の基本と使用する基礎数学及び統計学		
10	標本化と量子化		標本化定理とナイキスト周波数、エリアシングなど		
11	入出力特性		レスポンス関数		
12	解像特性		MTF		
13	雑音特性		SD, WS, RMS		
14	信号雑音比に基づく総合評価		DQE, NEQ		
15	画像の主観評価		ROC 解析		
教科書・参考資料					
教科書 「放射線写真学」 富士フイルムメディカル 著（富士フイルムメディカル） 参考書 「診療放射線技術（上巻）」 小塚隆弘，稲邑清也 監修（南山堂）					
評価方法					

定期試験：	90 %	左記の項目について、表記の割合で評価する。
確認テスト：	10 %	

授業科目	エックス線解剖学Ⅱ			科目番号	20
科目分野	専門基礎分野（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち）			学年学期	2 年前期
単 位 数	1 単位	時 間 数	30 時間	授業形態	講 義
担当教員	青山 敏幸、 濱谷 美和（専任教員）				
	実務経験	放射線撮影業務に携わった経験を持つ教員が、放射線検査における画像解剖を講義する。			

授業の概要

エックス線解剖学Ⅰでは単純X線写真、各種臓器解剖について学んできた。エックス線解剖学Ⅱではこれらの知識をもとに、血管解剖学的位置関係を理解し、血管造影検査、CT、MRI 検査における血管画像を三次元的に学ぶ。また眼底検査の画像理解も行う。

到達目標

1. 胸部、腹部 CT 画像の解剖を説明することができる。
2. 頭部 MRI 画像の解剖を説明することができる。
3. CT 画像と MRI 画像の違いならびに特徴を説明することができる。
4. 血管造影画像の解剖を説明することができる。
5. 眼底写真の画像解剖を説明することができる。

授業計画

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	エックス線解剖学Ⅱについて
2	視覚器 ①	解剖と眼底検査
3	視覚器 ②	眼底検査の画像と疾患
4	血管解剖総論	動脈と静脈の画像描出の違い
5	大動脈	大動脈から直接分岐する動脈画像について
6	脳血管 ①	頭頸部動脈の画像解剖
7	冠動脈	冠動脈の画像解剖
8	胸部血管	肺動脈、肺静脈、気管支動脈の画像解剖
9	腹部血管 ①	腹腔動脈などの画像解剖
10	腹部血管 ②	肝門脈などの画像解剖
11	腹部血管 ③	腎動脈などの画像解剖
12	四肢血管	四肢の動脈・静脈の画像解剖
13	脳血管 ②	頭頸部静脈の画像解剖
14	CT（胸部・腹部）	胸腹部における CT での解剖
15	MRI（頭部）	頭部における MRI での解剖

教科書・参考資料	
教科書 「若葉マークの画像解剖学」 松村 明，阿武 泉 監修（メジカルビュー社） 参考書 「カラー人体解剖学」 F.H.マティニーニ，他 著，井上貴央 監訳（西村書店） その他 必要に応じてプリントを配布する。	
評価方法	
定期試験： 60 % 確認テスト： 35 % 授業参加態度： 5 %	左記の項目について、表記の割合で評価する。
備 考	
本講義では、1 年次のエックス線解剖学Ⅰの知識が重要である。各自充分に 1 年次の復習を行うこと。	

授業科目		磁気共鳴断層画像技術学Ⅰ		科目番号	48	
科目分野		専門分野（診療画像技術学・臨床画像学）		学年学期	2 年後期	
単位数	1 単位	時間数	30 時間	授業形態	講義	
担当教員	木村 紀行（専任教員）					
	実務経験	磁気共鳴専門技術者の資格を有し、診療放射線技師として MRI 検査業務に携わっている教員が、MRI の原理等の基礎的分野について講義する。				
授業の概要						
MRI の基本原理である NMR 現象の解説と磁気共鳴画像診断装置（MRI）の基本的な撮像原理を理解する。						
到達目標						
1. 縦緩和、横緩和、T1、T2 の概念を理解する。 2. TR/TE による組織コントラストの変化について理解する。 3. 飽和、反転回復について理解する。 4. MR 画像の再構成について理解する。						
授業計画						
回	テーマ		内 容			
1	Orientation		授業の内容と概要、進め方、評価の方法などの説明			
2	MRI の基本原理		NMR 現象の概念などの説明			
3	RF 波		RF 波と共鳴周波数などの説明			
4	T1、T2		縦緩和、横緩和と T1、T2 の関係の説明			
5	T2*		T2*と T2、 FID、 Spin Echo 信号との関係の説明			
6	TR、TE、組織コントラスト		TR/TE と組織コントラストの関係の説明			
7	飽和(Sat)、反転回復(IR)		飽和(Sat)、反転回復(IR)などの説明			
8	スピンエコー(SE)法		スピンエコー(SE)法の概念の説明			
9	フーリエ変換		2D-FT 法による画像再構成法の説明			
10	スライス選択法		スライス厚とスライス位置の決定法の説明			
11	空間エンコード法		周波数エンコード法と位相エンコード法の説明			
12	信号処理		ナイキスト周波数、画像の SNR についての説明			
13	データ空間と k 空間		データ空間と k－空間の関係についての説明			
14	パルスシーケンス		パルスシーケンスの概念とその構成の説明			
15	撮像パラメータ		MRI における撮像パラメータの説明			
教科書・参考資料						
教科書						

「MR・超音波・眼底 基礎知識図解ノート」 新津 守 監修（金原出版）		
評価方法		
定期試験：	80 %	左記の項目について、表記の割合で評価する。
確認テスト：	15 %	
授業参加態度：	5 %	

授業科目		放射線安全管理学		科目番号	75
科目分野		専門分野（放射線安全管理学）		学年学期	2 年後期
単 位 数	2 単位	時 間 数	30 時間	授業形態	講 義
担当教員	鈴木 正俊（専任教員）				
	実務経験	診療放射線技師の資格を有し、病院において放射線管理経験のある教員が、主に医療現場における放射線安全管理の目的、方法について講義する。			
授業の概要					
放射線防護の視点から各種放射線の特性と人体への影響を学ぶとともに、放射線安全管理の考え方（目標、方策等）を理解し、放射線安全管理システム構築と運用に必要な基礎を学ぶ。また、医療現場で必要とされる放射線安全管理の基礎知識を身につける。					
到達目標					
1. 放射線安全管理の必要性和重要性を説明できる。 2. 電離放射線および非電離放射線が人体に及ぼす影響について説明できる。 3. 外部・内部放射線被ばくの評価と施設設計について説明ができる。 4. 放射線の安全取り扱いと被ばく防護方策を説明できる。 5. 個人モニタリングについて説明できる。 6. 放射性廃棄物処理について説明できる。 7. 関係法令の種類とその内容を説明できる。 8. 医療被ばくの特殊性を理解し、その現状と将来への課題について理解できる。					
授業計画					
回	テーマ	内 容			
1	放射線防護体系	放射線防護の目的、行為と介入、正当化・最適化・線量限度			
2	放射線防護に用いられる諸量	吸収線量、等価線量、実効線量、実用量と防護量			
3	放射線被ばくの種類と防護	自然被ばく、公衆被ばく、医療被ばく、職業被ばく			
4	放射線被ばくの特徴	外部被ばく、内部被ばく、全身被ばくと局所被ばく			
5	外部被ばく測定	測定器の種類と用途、測定方法と結果の評価			
6	内部被ばく測定	測定器の種類と用途、測定方法と計算方法、結果の評価			
7	施設・環境測定	測定器の種類と用途、測定方法と結果の評価、測定器の保守管理			
8	施設の管理（X線装置）	遮蔽体の材質と能力、遮蔽計算			
9	施設の管理（放射線発生装置）	遮蔽体の材質と能力、遮蔽計算			
10	施設の管理（放射性同位元素）	遮蔽体の材質と能力、遮蔽計算、排気・排水設備の構造と能力			
11	線源管理	線源の安全取扱い、遮蔽用具、汚染対策			
12	表面汚染管理	目的と方法、表面汚染密度の測定、結果の評価、汚染対策、洗浄設備、除染			

13	放射性廃棄物	分類、放射化物の安全取扱い、廃棄の方法
14	放射線事故	事故事例、発生時の対応、緊急作業、緊急被ばく医療
15	医療被ばく	診断参考レベル、線量拘束値
教科書・参考資料		
教科書 な し 参考書 「放射線安全管理学」 福士政広，井上一雅 著（医療科学社） 「アイソトープ手帳」 日本アイソトープ協会 編（日本アイソトープ協会） 「放射線概論」 柴田徳思 編（通商産業研究社） その他 必要に応じてプリントを配布する。		
評価方法		
定期試験： 90 % 授業参加態度： 10 %		左記の項目について、表記の割合で評価する。

授業科目		エックス線 CT 画像技術学		科目番号	46
科目分野		専門分野（診療画像技術学・臨床画像学）		学年学期	3 年前期
単 位 数	2 単位	時 間 数	30 時間	授業形態	講 義
担当教員	菅原 宏昌（専任教員）				
	実務経験	診療放射線技師として CT 撮影業務の経験のある教員が、CT の撮像原理および画像処理から臨床における検査方法まで系統的に講義する。			
授業の概要					
前半は X 線 CT の動作原理を中心に、装置に用いられている画像処理の特徴、画像表示方法について述べる。また、ヘリカルスキャンやマルチスライスの再構成理論、3D 画像構築についても学習する。 後半は臨床現場で使用されている検査法について触れ、臨床の現場ですぐに役立つような内容の講義を行っていく。近年、CT 装置の改良もめざましく、また再構成法にも新たな方式が使用されつつある。これらの事柄にも触れ、将来的に CT 装置の性能を十分に引き出すことができる知識を習得する。					
到達目標					
1. X 線 CT 装置の歴史と変遷を説明することができる。 2. X 線 CT 装置の撮影原理と画像再構成理論を説明できる。 3. X 線 CT 装置の画質に関与する性能を理解し、検査目的に応じて自在に撮影プロトコルを設定できる。 4. 造影検査とその画像処理（3D 構築）に関して検査目的に応じた画像構築ができる。 5. 臨床における X 線 CT 検査の方法を説明できる。					
授業計画					
回	テーマ	内 容			
1	X 線 CT 装置の歴史と変遷	開発当初の CT 装置の原理と現在までの発展			
2	X 線 CT 装置の基本	X 線 CT 装置の原理と構成			
3	回転断層理論と画像再構成	ラドンの再構成則から FBP まで			
4	CT 画像の信号	HU 値と線減弱係数			
5	ヘリカルスキャン	コンベンショナルスキャンとヘリカルスキャンについて			
6	補間再構成法	ヘリカルスライスによる画像再構成			
7	マルチスライススキャン	MSCT と他の CT との違いと利点、3 次元逆投影法			
8	多列検出器 CT の現在	現状での多列検出器の利点と特性			
9	CT 撮影で起こる諸効果	ビームハードニング、パーシャルボリューム効果等			
10	画像処理	MPR、MIP、VR 等の 3D 画像処理法など			
11	X 線 CT 装置の性能評価	性能評価試験と CTDI			
12	一般的な各部位の CT 検査	人体各部位の一般的な CT 検査法			

13	特殊な CT 検査（HRCT 等）	高分解能 CT など目的に応じた検査法
14	CT 造影剤の種類、使用法	造影剤の種類、注意事項と自動注入器について
15	造影 CT 検査、3D 画像作成	造影検査と画像処理に関して
教科書・参考資料		
教科書 「CT 撮影技術学」 山口 功，市川勝弘，辻岡勝美，宮下宗治，原田耕平 共編（オーム社） 参考書 「診療放射線技術（上巻）」 小塚隆弘，稲邑清也 監修（南江堂） 「診療放射線技師画像診断機器ガイド」 中澤靖夫 編集（メジカルビュー社）		
評価方法		
定期試験： 90 % 授業参加態度： 10 %		左記の項目について、表記の割合で評価する。

看護学科

看護学概論Ⅰ

1 単位（30 時間）：1 学年 前期

担当講師名：澤崎 恵美〔実務経験のある講師による科目〕

ねらい

1. ナイチンゲールを基礎とした看護の概念について理解する。
2. 看護の対象である人間について関心を持ち、身体的・精神的・社会的側面を持つ生活者であることを理解する。
3. 人々の生活が環境と健康とのかかわりで成り立っていることを理解する。

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
看護とは何か （ 10 時間 ）	1. 看護とは何かをナイチンゲールに学ぶ。 2. 生活過程を整える看護を構成する要素について考える。 3. ナイチンゲールに見る看護の役割について学ぶ。	1. 看護とは何か 「対象の生命力の消耗を最小にするように整えること」を理解する。 2. 「病気の本質」から生命の消耗を最小にするために生活過程を整えることについて考える。 3. 看護師とは何かを考える。 ①看護師の使命感 ②臨床で学ぶ看護の基本要素	講義・演習 グループワーク レポート
看護の対象理解 （ 8 時間 ）	1. 看護の対象である人間について自分の言葉で考えを述べることができる。 2. 看護の対象である人間について身体的・精神的・社会的側面	1. 私の考える人間とは 2. 看護の対象としての人間 ・人間の「こころ」と「からだ」 ・生涯発達しつづける存在 3. 人間の「暮らし」の理解 ・生活者としての人間 ・看護の対象としての家族・集団・地域	講義・演習 グループワーク

	を持つ全体像として理解する。 3. 生活者としての人間について理解し、看護はどのような役割を果たすかについて考えることができる。		
健康を考える (10 時間)	1. 健康とは何かを考え、自分の言葉で述べられる。 2. 健康と障害、生活の関係を考え述べることができる。 3. 主要な公的統計の結果から、国民全体の健康と生活の全体像を把握することができる。	1. 人間にとっての健康とは 2. 健康のとらえ方 ・健康とはなにか ・健康でない状態とはどのようなものか ・障害とはなにか ・生活と健康 ・健康の実現：ヘルスプロモーション 3. 国民の健康の全体像 4. 現代の日本人の健康と生活を考える	講義・演習 グループワーク
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 看護学概論 基礎看護学（医学書院）第 17 版 フローレンス・ナイチンゲール「看護覚え書」（現代社） 評価方法：筆記試験（80％） レポート（20％）			

看護学概論Ⅱ

1 単位（30 時間）：1 学年 前期

担当講師名：澤崎 恵美〔実務経験のある講師による科目〕

ねらい

1. 近代看護が成立した背景を学び、看護の発展のプロセスから未来の看護を展望する。
2. 看護理論の意義と、看護実践に活用するヘンダーソンの理論を理解する。
3. これからの看護に期待される役割について理解する。

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
看護の歴史 （14 時間）	1. 看護の変遷を理解し、未来の看護を臨むことができる。 2. 各時代の暮らし（生活）と健康をつなぐことができる。 3. 各時代の暮らし（生活）と医療・看護の関係について考えることができる。	1. 導入 何故看護歴史を学ぶのか 2. 日本看護史の各時代の暮らしと健康（病気）をつなぐ 3. 各時代の医療・看護を暮らしとの関係について 4. 日本の看護師の歩みから、未来へつなぐものは何かを考える	講義・演習 グループワーク 予習シート 小テスト
看護理論 （8 時間）	1. 看護理論の発展と主な看護理論家の業績を概観し、看護実践に活用できることを理解する。	1. 看護理論とは 2. 看護理論の重要性 3. 看護の理論的業績の概観 4. 主要な概念と定義 5. ヘンダーソン看護理論の看護実践への活用例	講義・演習 グループワーク
	1.	1. 看護サービスの担い手とチーム医療	講義・演習

看護サービス 提供の場と保 健医療福祉 (6 時間)	看護サービスの 担い手と場の広 がりを理解す る。 2. 保健医療福祉活 動が直面する課 題を理解し、多 職種との連携を 考える。	・看護サービス提供の担い手 ・チーム医療とは何か 2. 看護サービス提供の場 ・医療施設における看護 ・地域における看護(学校/在宅/産業) ・継続看護(訪問看護ステーション/外 来) 3. 保健医療福祉活動における看護職の役割 4. 保健医療福祉活動における課題	
単位認定試験 (2 時間)	1. 既習の学習内容 の自己知識の再 確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 看護学概論 基礎看護学（医学書院） 第17版 看護学生のための日本看護史（医学書院） ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」（日本看護協会出版会） 評価方法：筆記試験（60％）課題（40％）			

看護の共通技術 I

1 単位 (30 時間) : 1 学年 前・後期

担当講師名 : 藪田 由美・石田 美香 [実務経験のある講師による科目]

ねらい

1. 看護技術の概念と、看護技術を実践するための要素を理解する。
2. 信頼関係構築の基本となるコミュニケーションの意義及び方法を理解し、実践できる能力を養うための基礎を学ぶ。
3. 看護記録の意義と実際の記録物について学ぶ。
4. 看護における学習支援の意義と実際について学ぶ。

単元 (時間数)	目 標	内 容	方 法
看護の方法と技術 (2 時間)	1. 看護技術とは何かがわかる。 2. 看護技術の基本原則と構成がわかる。	1. 看護技術とは 2. 看護技術の特徴 3. 基礎看護技術の範囲 4. 看護技術を適切に実践するための要素	講義 担当: 藪田 由美
コミュニケーションの基本 (4 時間)	1. 信頼関係構築におけるコミュニケーションの重要性がわかる。 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程がわかる。	1. コミュニケーションの意義と目的 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. ミスコミュニケーション 4. 医療におけるコミュニケーション	講義・演習 担当: 藪田 由美
関係構築のためのコミュニケーションの基本 (2 時間)	1. コミュニケーションの基本的な方法についてわかる。	1. コミュニケーションの基本的態度 (接近的行動と非接近的行動) 自己紹介・身だしなみ・表情・視線・距離・スキンシップなど	講義・演習 担当: 藪田 由美

効果的なコミュニケーションの実際 (10 時間)	1. コミュニケーション活動の基本である「聴く」について、理解できる。 2. 様々な看護場面にあるコミュニケーション方法が理解できる。 3. コミュニケーション障害がある人の特徴と対応がわかる。	1. 傾聴の技術 受容 共感的理解 同情との違い 承認 価値観の違い 自己開示 2. 情報収集の技術 質問の技術 面接の技術 3. 説明の技術 4. アサーティブネス 5. コミュニケーションに障害がある人の特徴と対応	講義・演習 担当: 藪田 由美
単元 (時間数)	目 標	内 容	方 法
看護記録 (4 時間)	1. 看護記録の法的規定目的・機能がわかる。 2. 看護記録の実際についてわかる。	1. 法的規定・目的・機能 2. 記録の種類・構成 基本情報 看護計画 経過記録 3. 記載・管理における留意点	講義・演習 担当: 石田 美香
学習支援 (6 時間)	1. 看護における学習支援の在り方を理解する。 2. 様々な対象に対する学習支援の実際について理解する。	1. 看護における「学習支援」の意義と目的 2. 健康にいきることを支える学習支援 3. 健康状態の変化に伴う学習支援	講義 担当: 石田 美香
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 基礎看護技術 I 基礎看護学[2] (医学書院) 18 版 評価方法：筆記試験 (100%)			

看護の共通技術Ⅱ

1 単位（30 時間） ： 1 学年 前・後期

担当講師名： 櫻井 葉子 他〔実務経験のある講師による科目〕

ねらい

1. 対象の健康状態を観察、記録、評価する意義と方法を学ぶ。
2. フィジカルアセスメントを実施できる基礎的技術を習得し、対象の健康状態を把握する基礎を学ぶ。

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
ヘルスアセスメントの視点（2 時間）	1. 人間を身体・心理的・社会的存在として捉え、ヘルスアセスメントの視点を述べることができる。 2 対象の健康状態を評価する意義と、視点を理解できる。	1. 観察とは 2. 観察の視点と留意点 3. ヘルスアセスメントの意義と目的 4. ヘルスアセスメントの視点	講義 担当： 櫻井 葉子
バイタルサイン（12 時間）	1. バイタルサイン測定の目的を理解し、正確な測定及び記録報告ができる。	1. バイタルサイン測定とは ①必要物品 ②基本原則 2. バイタルサインの測定方法と留意点 3. バイタルサイン測定の観察の視点と留意点	講義 演習 担当： 櫻井 葉子
フィジカルイグザミネーション	1. 生活状況を整える援助とアセスメントの結びつきが理解できる。	1. 問診の技術 2. 健康歴聴取の実際 3. フィジカルアセスメントに必要な技術 ①視診 ②触診	講義 演習 担当： 宮川 直樹

(14 時間)	2. 胸部・腹部のフィジカルイグザミネーションが正確に実施できる。	③打診 ④聴診 4. 胸部のフィジカルイグザミネーション 5. 腹部のフィジカルイグザミネーション 6. 神経系・筋・骨格系のフィジカルイグザミネーション 7. 正確なバイタルサイン測定と、胸部・腹部のフィジカルイグザミネーション	技術チェック
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学[2]（医学書院）第18版 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術（医学書院） 第2版改訂 評価方法：筆記試験（60%）、演習（40%）			

日常生活援助技術Ⅰ

1 単位（30 時間）：1 学年 前・後期

担当講師名： 櫻井 葉子 ・ 桙本 真美 ・ 澤崎 恵美
[実務経験のある講師による科目]

ねらい

対象を尊重し、看護実践の基礎となる様々な看護活動に共通する看護技術、日常生活行動を整える看護技術を習得する。

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
環境調整 （ 12 時 間 ）	1. 快適な療養環境を整える必要と方法を理解する。 2. 療養環境を安全・安楽・快適に整えるために必要な看護技術を習得する。	1. 環境調整の意義と看護の役割 2. 療養生活の環境 医療環境の構造と機能 寝具・ベッドの種類と機能 3. 病院見学 病院の概要（機能・特徴） 病棟・病室の構造、設備、物品の配置 及び管理、入院患者の特徴などの実際 4. 療養環境のアセスメント 換気・温度・湿度・彩光と照明・色彩 臭気・騒音・プライバシー・安全 5. 生活環境を整える援助の実際 ・ベッドメイキング ・環境整備 ・臥床患者のリネン交換	講義・演習 担当： 櫻井 葉子 病院見学
活動・移動・姿勢の保持 （ 10 時 間 ）	1. 人間の活動・移動・姿勢の保持の意義を学び、必要な援助方法が理解できる。 2.	1. 活動の意義と看護師の役割 2. 姿勢と体位 良肢位・基本体位 3. ボディメカニクスの概念・意義 4. 廃用症候群 5. 褥瘡発生のメカニズム	講義・演習 担当： 桙本 真美

	安全・安楽に対象の活動・移動・姿勢の保持を助けるために必要な看護技術がわかる。	6. 体位変換の援助 ・ベッド上での水平移動 ・仰臥位→側臥位 ・仰臥位→端座位 ・端座位→立位 7. ポジショニング 8. 移動・移乗・移送の援助 ・歩行の介助 ・車いすでの移乗・移送の介助 ・ストレッチャーへの移乗・移送	
睡眠と休息 (2 時間)	1. 睡眠・休息の意義を学び、必要な援助方法がわかる。	1. 睡眠・休息の意義 ・睡眠のメカニズム ・サーカディアンリズム 2. 睡眠障害のアセスメント ・睡眠障害の種類とその要因 ・睡眠に関するアセスメントの留意点 3. 睡眠・休息への援助 ・環境調整 生活リズム 睡眠習慣	講義 担当： 榎本 真美
単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
苦痛の緩和・安楽の援助 (4 時間)	1 苦痛を緩和し、安楽を提供する援助方法がわかる。	1. 罨法 2. ポジショニング	講義・演習 担当： 澤崎 恵美
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院) 第18版 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術(医学書院) 第2版改訂 評価方法：筆記試験 (100%)			

日常生活援助技術Ⅱ

1 単位（30 時間）： 1 学年 前・後期

担当講師名： 榎本 真美・阿部 綾・石田 美香〔実務経験のある講師による科目〕

ねらい

対象を尊重し、安全・安楽・自立に留意しながら、日常生活行動を整える看護技術を習得する。

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
清潔の保持と衣生活 （ 12 時間 ）	1. 疾病・療養生活が清潔行動に及ぼす影響を理解する。 2. 清潔保持の意義を理解する。 3. 清潔・衣生活へのアセスメントの視点を理解する。 4. 清潔・衣生活援助技術を習得する。	1. 療養生活を送る患者の清潔保持の意義 2. 皮膚・粘膜の構造と機能 3. 清潔援助方法の選択と援助の実際 4. 入浴・シャワー浴の意義 5. 清拭（全身清拭・部分清拭） 6. 洗髪 整容 手浴 足浴 陰部洗浄 7. 療養生活に適切な衣類の選択と条件 8. 衣生活の意義と援助 9. 臥床患者の寝衣交換 10. 清潔・衣生活における看護の役割	講義・演習 担当： 阿部 綾
食事 （ 8 時間 ）	1. 食事・栄養の意義を理解する。 2. 栄養状態および摂食能力のアセスメントの視点を理解する。 3. 状況に合わせた安全・安楽な援	1. 人間にとっての食事・栄養の意義と看護の役割 2. 摂食・嚥下・消化吸収の機能 3. 栄養状態・摂食能力のアセスメント 4. 食事援助の実際 ・療養における食事内容の調整 ・食事環境の調整 ・食事の準備/食事介助/食後のケア	講義・演習 担当： 榎本 真美

	助方法を理解する。	5. 非経口的栄養摂取の援助 ・経管栄養法 ・経静脈栄養法（中心静脈栄養法）	
排泄 （ 8 時間 ）	1. 排泄の意義を理解する。 2. 排泄のメカニズムとアセスメントの視点を学ぶ 3. 排泄援助の基本的姿勢を学び、援助方法がわかる。	1. 排泄の意義と看護の役割 2. 排尿・排便のメカニズムと排泄物の正常・異常 3. 排泄に影響を及ぼす因子 4. 排泄および排泄行動のアセスメント 5. 対象に応じた排泄介助の実際 ・トイレにおける排泄援助 ・床上排泄援助（おむつ交換・尿器） ・排泄用具を用いた排泄援助 6. 排便障害時の援助 ①自然排便を促す援助 ②摘便 ③浣腸：グリセリン浣腸	講義・演習 担当： 石田 美香
単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
単位認定試験 （ 2 時間 ）	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③（医学書院）第18版 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術（医学書院） 第2版改訂 評価方法：筆記試験 100%			

診療の補助技術 I

1 単位（30 時間）：1 学年 前・後期

担当講師名：堀川 亜希・石田 美香・三上 剛人
[実務経験のある講師による科目]

ねらい

対象を尊重し、看護実践の基礎となる様々な看護活動に共通する看護技術、日常生活行動を整える看護技術を習得する。

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
感染防止 （ 8 時間 ）	1. 感染予防の重要性を学ぶ。 2. 感染防止の基本的な技術を習得する。	1. 感染防止の基礎知識・感染の成立 2. 感染防止対策の基本 ①基本的な考え方 ②標準予防策 ・衛生的な手洗い・手指消毒 ・個人防護用具 ③洗浄・消毒・滅菌 3. 感染経路別予防策 4. 感染拡大防止の対応 5. 無菌操作 ・基礎知識 ・無菌操作の実際 ・鉗子・鑷子の取り扱い ・滅菌手袋の着用 6. 感染性廃棄物の取り扱い	講義・演習 担当： 堀川 亜希
検査・処置時の 看護師の役割 （ 6 時間 ）	1. 検査・処置の意義および治療・処置における看護師の役割を理解する。	1. 症状・生体機能管理の目的と看護師の役割 2. 検体検査の基礎知識 ①血液検査	講義・演習 担当： 石田 美香

	2. 検査介助の基礎知識を学び、検査の種類と実施時の注意点を理解する。	②尿検査 ③便検査 3. 生体情報のモニタリング ①心電図検査 4. 穿刺（胸腔・腹腔・腰椎・骨髄） 5. 検査・処置の介助 ①X線撮影 ②CT ③MRI 6. 輸液・輸血の種類と取り扱い方法	
呼吸・循環・体温を整える技術 (8 時間)	1. 呼吸管理に必要な看護技術を理解する。 2. 吸引の目的と実施方法を理解する。 3. 血流・血圧を保つケア	1. 酸素療法 ・酸素の供給方法 ・酸素吸入方法 2. 排痰ケア 3. 吸引 一時的吸引(口腔/鼻腔/気管内吸引) 4. 吸入 5. 末梢循環促進ケア 6. 体温管理の技術	講義・演習 担当： 石田 美香
単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
救命救急処置 (6 時間)	1. 患者の生命に直結する一次救命処置技術を習得する。 2. 創傷を管理する保護技術を習得する。	1. 一次救命処置 ①一次救命処置の基礎知識 ②急変時における初期対応 ③一次救命の実際 2. 止血法 3. 創傷の管理と包帯法	講義・演習 担当： 三上 剛人
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③（医学書院）第18版 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術（医学書院） 第2版改訂 評価方法：筆記試験 （100%）			

看護過程Ⅰ

2 単位（30 時間） ： 1 学年 後期

担当講師名： 池田 緑 他〔実務経験のある講師による科目〕

ねらい

看護過程の意義を理解し、対象にとって必要な援助を見極め、実践するための考え方について学ぶ。

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
看護過程の展開に必要な思考の訓練 （ 8 時間 ）	1. 「考える」経験を通して、自分の思考に気づくことができる。	1. 「考える」とは 2. 問題解決思考 3. クリティカルシンキング 4. 倫理的配慮と価値判断 5. リフレクション	講義 演習
看護過程の概要 （ 2 時間 ）	1. 看護実践における看護過程の意義・目的が理解できる。 2. 看護過程の構成要素について述べることができる。	1. 看護過程とは 2. 看護過程の構成要素 3. 情報収集の枠組みと理論家（ヘンダーソンの基本的欲求と日常生活）	講義 演習
看護過程の実際 （ 18 時間）	1. 必要な情報収集ができる。 2. 情報の持つ意味を考える事ができる。 3. 患者に必要な看護を考える事ができる。	事例を用いて看護過程の展開を行う。 1. アセスメントとは（情報収集、解釈・分析・問題の推論） 2. 常在条件・病理的状态 3. 全体像 4. 看護上の問題の特定 5. 看護計画の立案 6. 評価の意義と方法	講義 演習・レポート

	4. 援助した結果を 評価できる。		
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容 の自己知識を再 確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 基礎看護学技術Ⅰ 基礎看護学[2]（医学書院）第18版 評価方法：筆記試験（50％） レポート（50％）			

地域で生活する人々の理解

1 単位（15 時間） ： 1 学年 後期

担当講師名： 柁本 真美〔実務経験のある講師による科目〕

ねらい

1. 人々が地域で暮らす、支え合い生きることを学ぶ。
2. 地域の生活環境が健康に与える影響を学ぶ。

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
人々の暮らしと健康 （ 4 時間 ）	1. 人々の暮らしを理解する。 2. 暮らしと健康との関係について考えることができる。	1. 暮らしとは ・暮らしを構成するもの ・1人ひとり異なる暮らし 2. 暮らしと健康の関係 ・暮らしのなかで生じる健康問題とその影響 ・家族の暮らしと健康 3. 暮らしのなかで健康をとらえる ・健康の多様性 ・健康をとらえる看護の視点	講義
暮らしの基盤としての地域の理解 （ 6 時間 ）	1. 地域のとらえ方を理解する。 2. 地域包括ケアシステムについて理解する。	1. 地域・在宅看護の役割 ・地域・在宅看護とは ・「健康な暮らし」の支援 ・予防とヘルスリテラシーの向上 2. 暮らしと地域 ・地域の定義 ・人々の暮らす地域の多様性 3. 地域包括ケアシステムと地域共生社会	講義

		・地域包括ケアシステムとは ・地域包括ケアシステムの構成要素 ・自助・互助・共助・公助とは ・地域包括ケアシステムの推進 ・地域共生社会とは ・従来の看護をこえた新たな取り組み	
単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
地域・在宅看護の対象 （ 4 時間 ）	1. 地域・在宅看護の対象を述べられる。 2. 地域に暮らすあらゆる健康課題やライフステージの人々を知る。 3. 家族とは何か述べられる。	1. 地域・在宅看護の対象 ・地域による多様性 ・ライフステージによる多様性 ・健康レベルの多様性 2. 家族の理解 ・わが国における家族の現状 ・家族の発達と課題解決の機能 ・家族と意思決定支援 ・家族発達理論、家族システム理論	講義
単位認定試験 （ 1 時間 ）	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 評価：筆記試験（100%）			

成人看護学概論

1 単位 (30 時間) : 1 学年 後期

担当講師名 : 堀川 亜希 [実務経験のある講師による科目]

ねらい

成人期にある対象の特徴と対象を取り巻く環境について学び、成人の成長・発達と健康の水準に応じた健康問題や成人の特徴をとらえた看護の基本となる考え方について理解する。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
成人の特徴と 成人を取り巻く環境 (4 時間)	1. 成人期にある対象の特徴を理解する。 2. 健康問題に関する社会の動向をとらえる。	1. 生涯発達の概念 2. 成人の発達段階、発達課題 3. 成人の身体的・精神的・社会的な特徴 4. 成人期の生活と取り巻く環境 ・社会状況の変化 ・産業構造・労働環境の変化 ・就労条件・環境と疾病の関係 ・ストレスと健康 ・ストレスと対処法 5. 成人のライフスタイルの特徴 6. ストレスに関連する健康課題 ・ストレスと健康 ・ストレスと対処法 7. 家族形態の変化、家族システムの機能 ・役割	講義 グループ ワーク
成人の生活と 健康 (2 時間)	1. 成人の健康を生活と社会環境から多角的に捉える。	1. 成人の健康状況 ・生活習慣病の要因 ・健康問題の現状と推移 2. 生活と健康を守り、育むシステム 3. ヘルスプロモーション	講義
成人への看護 アプローチの 基本 (8 時間)	1. 看護におけるマネジメントの役割・機能について、看護ケアの	1. 看護におけるマネジメント 2. 医療の場における倫理的課題、倫理的判断の基盤 3. 意思決定支援の概念	講義 グループ ワーク

	質保証の観点から理解する。 2. 患者の意思決定を支える看護師の役割について理解する。 3. 効果的な症状マネジメントを導く看護アプローチを学ぶ。 4. 患者と看護師との人間関係の構築とそのプロセスについて理解する。 5. 看護における多職種連携の重要性について理解する。	4. 意思決定プロセスにおける看護師の役割 5. 成人の健康行動の概念 ・健康行動、保健行動 6. 行動変容を促進するアプローチ 7. 症状マネジメント 8. 健康問題をもつ成人と看護師の人間関係 9. 看護における集団へのアプローチ 10. 多職種連携、チームアプローチ	
成人の健康水準に対応した看護 (12 時間)	1. 成人の健康水準の特徴と対応する看護を理解する。	1. 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 ・急性期にある人の特徴 ・急性期にある人の看護 2. 回復期にある人・障害がある人の生活を支援する看護 ・回復期にある患者の特徴と看護 ・リハビリテーションにおける看護の役割 役割（廃用症候群の予防） ・障害の受容過程とその支援 3. 慢性的な経過をたどる健康障害の特徴と慢性疾患を有する人の看護 ・慢性疾患とともにある生活の理解 ・セルフケア・セルフマネジメントへの支援	講義 グループワーク

		・行動変容を促進するアプローチ 4. 人生の最期のときを支える看護 全人的苦痛と死の受容過程	
退院支援・家族支援に関わる看護活動 (2 時間)	1. 退院支援における看護師の役割を理解する。 2. 家族の機能と家族支援に向けた看護の役割を理解する。	1. 退院支援の必要性和プロセス 2. 家族機能 3. 家族支援のアプローチ 4. 社会資源の活用	講義
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書： 系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学4 臨床看護学総論 第7版（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学1 成人看護学総論 第16版（医学書院） 国民衛生の動向（2020/2021） 評価方法：筆記試験（70%）、授業への参加状況と演習評価（30%）			